

チームでつくる

# 元気な医院

⑪



デンタルタイアップ  
代表 小原 啓子

「東北関東大震災」において、被害に遭われました皆さんに心よりお見舞いを

申し上げます。また、被災地で日夜を問わず、被災者救助を始めとする災害対策に全力を尽くしていらっしゃる皆さま

に深い敬意と感謝の意を表します。

阪神淡路大震災で地震の恐ろしさを身に染みて

感じていた私たちに、あらためて津波の恐ろしさと、原発の安全性のもうさを知らしめたこの度の震災。千年に一回という大地震の被害状況や失われた命の数を聞くにつれ、何とも言えないもどかしさを感じ入る日々を過ごしています。

私たちに何ができるのか。少しでも、何かできることがあるのならば……。阪

神淡路大震災の時に被災を受けた地域

に存在する歯科医院のミーティングの中でも話題になりました。

日々報道されるニュースを聞くにつれて、どの人も、自分に何ができるのかと自問しています。

## 私たちが身近でできる「こと

同じような大地震

状況が落ち着いた時点で今のは現実化していきましょう

しかし、今の段階では、国レベルでの対策が中心であり、個々としての気持ちをもたらすことは、義援金への協力をしようということになりました。院長からは、次のような言葉が出ました。

「この建物も、前回の震災の時には耐えられましたが、同じレベルの地震があれば、持ちこたえられるかは分からぬ」と思っています。

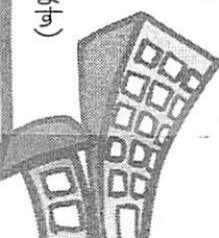
がいつ自分たちの地域で起きるか分からぬ。日本は今、誰もが自分でできることは何かと考えています。被災地の皆さんにはご無事と、一日も早い復旧を心よりお祈り申し上げ、この連載を終えた

きった時に、対応できるとは考えておかないといけない」

「防災用具をそろえておきましょう

「水の確保はこれがいるから当分は丈夫」「節電を心がけましょう」「防災すきんはいるんじゃないだろうか」「先生、ヘルメットも必要じゃないでしょうか」「災害時の訓練は必要だし、マニュアル化しておく必要があります」「いろいろ必要な物もありますが、被害を受けられている方に救助物品が行くことが先

にあります。



(今回で終わります)